



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

歯学部創設30周年にあたり

昭和大学歯学部同窓会会長 飯島 裕之

昭和大学歯学部が30周年を迎えます。同窓生は24回生まで卒業していることになり、平成18年11月4日に予定されている30周年記念会は、同時に同窓会にとっても4半世紀目の節目の会となるわけです。これまでに多くの同窓生が大学を離れ、全国各地にその活躍の場を求めていきましたが、その中、一昔前は卒業後7年で7割が開業すると言われた我々歯科の世界も、近年少し様変わりしているように感じます。医科と比べて大きな病院に勤務することは、受け皿が少ないことからその頻度は多くありませんが、中規模ないし小規模の病院に歯科の診療科が併設されているのを見ることが多くなってきました。開業医でなく勤務医も少しずつ増えてきているようです。



現実問題として、開業医数の増加と医療費抑制策により、歯科診療所の経営は厳しくなっていますが、平成18年の卒業生からスタートした臨床研修医制度は、開業医にとり大きな関心事となっています。卒業してすぐに開業医に勤務したいと思っても、制度の上から出来ない訳ですが、臨床での治療経験のない卒業生を開業医が受け入れるのは、難しい状況であるのも事実で、臨床経験をつむ機会の方が確保されることは歓迎されるでしょう。

新しく誕生する歯科医・昭和大学歯科病院の臨床研修医に対しても、我々同窓会で何らかの支援ができるよう考えていかなければならないと思います。

同窓会は、同窓生にとっては親睦や学術研修を目的とする集団ではありますが、同時に大学の発展に寄与することを目的としております。特に今後は、医療連携についても同窓会が大きく貢献できる場所であると考えており、今後のさらなる昭和大学歯学部発展のため、努力してまいりたいと考えております。

第一回歯学部進学相談会報告

入試広報委員長 山田 庄司

歯学部相談会(オープンキャンパス)が7月29日(土)午後1時半から歯科病院で開催されました。当日は天候にも恵まれ、昨年とほぼ同数の受験生(編入生7名を含む88名)とその家族が参加して臨床

講堂は満席でした。

臨床講堂でスライドを使って、約1時間の全体説明会が行われ、「歯学部教育の特色」「卒後の進路」「富士吉田での学生生活」「平成18年度歯学部入学試験(試験の概要及び試験の傾向と対策など)」について説明がありました。

説明会終了後、参加者は班に分かれ、歯科病院内の施設見学を行いました。担当の職員より、ビデオや実際の診療器具を用いて各診療科の特色や最新治療技術の説明がありました。

見学終了後には、臨床講堂で個別相談が行われ、午後4時半過ぎに終了しました。

なお、歯学部では8月26日(土)にも同様の相談会を、9月23日(土)には場所を旗の台に移し「施設見学」を「模擬授業」に変更し、開催する予定です。

医学教育ワークショップ報告

顎口腔疾患制御外科学教室 新谷 悟

さる7月24-26日、昭和大学富士吉田キャンパスで行われた第12回 昭和大学・医学教育のためのワークショップに参加して参りました。私がピギナーコース、口腔解剖の中村雅典先生がアドバンスコースに参加し、高齢者歯科の佐藤裕二先生がタスクフォースを担当されました。ワークショップは自己紹介、「教育に関するエピソード」のお絵かきなど、和気藹々とした雰囲気での始まりでしたが、カリキュラム、教育目標、方略、評価と進むにつれて、少人数グループでの議論、発表、全体討議と非常にハードになっていきました。教育に関して集中的に考え、学ぶ、良い機会であり、また、医、歯、薬、保健医療学部の先生方が、一つの目標に力を合わせ作業することで連帯感も生まれた非常に有意義な3日間でした。



平成19年度昭和大学歯科病院歯科医師 臨床研修説明・見学会

総合診療科 長谷川 篤司

平成19年度歯科医師臨床研修説明会が7月15日(土)午後2時より歯科病院1号棟6階の第1・第2臨床講堂で開



催されました。当日は午後1時過ぎからの雷を伴う強い雨にもかかわらず、他大学在学(出身)者302名(23大学)が参集しました。

研修説明会では、臨床研修プログラム責任者である長谷川(総合診療歯科)科長が研修プログラムの理念と目標、研修日程、学内ローテーション研修、総合診療歯科研修、協力型研修施設、研修医の処遇、採用試験の日程などについて詳細に説明しました。説明後の質疑応答では活発に質疑がなされましたが、採用試験の試験内容が焦点となっていたようです。

また、今回は特別に本年度臨床研修医である市川麻里江研修医(日本歯科大卒)と加藤里英研修医(明海大卒)から本学臨床研修プログラムに参加した感想を話してもらったところ、他大学出身の先輩からの感想やアドバイスを真剣に聞き入っていました。続く歯科病院内の見学会では、1組約30名を管理課職員と総合診療歯科教員が院内各部署に誘導し、説明しました。見学コースの中では、総合診療歯科外来とスキルスラボへの関心が集まっていたようです。

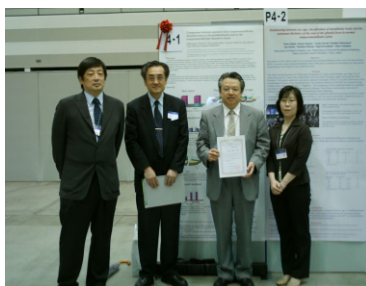
なお、昭和大学在学(出身)者および父兄会を対象とした平成19年度歯科医師臨床研修の説明は、すでに6月24日(土)に開催いたしました。

学会賞受賞

広報委員長 五十嵐 武

船登雅彦(歯科補綴学教室 講師)

2006年7月19-21日に名古屋で開催された第1回国際顎関節学会ならびに第19回日本顎関節学会学術大会において、ポスター発表優秀賞を受賞されました。



受賞演題名:「Comparison between patients with temporomandibular disorders seen in the prosthodontics and in the temporomandibular disorders clinics」

第26回昭和歯学会総会報告

昭和歯学会常任理事(庶務) 中村 雅典

7月22日(土)に歯科病院6階第一臨床講堂で第26回昭和歯学会総会が開催され、昭和大学歯学部で行われた教育・研究・臨床の成果が18題発表されました。さらに、研究紹介講演では、歯周病学教室の山本松男教授が「これからの歯周病学への取り組み」について、上條奨学賞研究補助受賞講演では、顎口腔疾患制御外科学の岩瀬正泰講師が「口腔癌に対する分子標的療法の開発」について講演されました。また、昨年度でご退職された佐々先生、南雲先生が本学会名誉会員に推戴されました。

第14回日本歯科色彩学会報告

齶蝕・歯内治療学教室 東光 照夫

平成18年7月29-30日、福島県郡山の磐梯熱海温泉「清稜山倶楽部」で、奥羽大学 保存修復学教授 天野義和先生を大会長にして、第14回日本歯科色彩学会が開催されました。

今回のテーマは『色と健康増進』で、口頭7題、ポスター9題の16演題の他、ハート&カラーの末永蒼生先生による特別講演1題が行われました。「心を元気にする色 健康を表現する色」という特別講演の内容は、「絵画を通して色が人間心理にどう影響するか」を検討したものでした。本学からは、宮崎 隆歯学部 長 久光 久教授を含め8名が参加しました。



歯科色彩学会は、1993年に設立され、会員数250名程度で知名度は高くはありませんが、活発に歯科色彩学の研究・発表が行われています。会の目的は、色彩の基礎的学究を通じ、歯科色彩の追求、歯科医学・医療の発展に貢献することです。補綴、保存、技工などの専門性の枠を取り払った学際的な会として活動をしています。現会長は、明海大学名誉教授 片山 伊九右衛門先生で、平成19年度からは本学教授 久光先生が就任します。歯の色という患者さんにも分かりやすく広範な守備範囲の学会に、本学の先生方が設立に関わっていることは、現在の審美歯科の隆盛を支える理由のひとつとして誇りに思います。今後の学会の発展を期待いたします。

D6 選択実習を体験して

歯学部6年 黒崎 美弥子

私は広島大学病院総合診療科で2週間、選択実習を受けました。実習内容は、診療の見学、講義・症例検討会への参加、Advanced OSCE の体験、「親子のむし歯予防教室」への参加などでした。いずれも、今までと全く異なる環境で、新たに学ぶことが多く、非常に勉強になりました。特に、「親子のむし歯予防教室」は印象的でした。これは、毎年行われている小児歯科主催の行事で、公開講座のように地域の方々に来ていただき、う蝕予防などについて学んでもらう行事です。具体的には、歯科相談、歯科検診、歯磨き指導など、多数のコーナーがあり、私はカリエスリスクを測定するコーナーで、子供のRDテストを行いました。

広島大学病院では総合診療科のマネージメントも、研修医が行っていることに驚きました。器具の整備や材料の補充、不足している場合は業者への注文なども研修医が行い、安全で質の高い診療を維持、管理していました。

この実習を通して、歯科に関する新たな知識も増えましたし、広島大学の研修制度について十分に理解でき、卒後の進路の参考にもなりました。また、良好な人間関係も築くことができ、広島大学病院で実習をして本当に良かったと思っています。2週間という短い間でしたが、この2週間は私にとって非常に有意義で充実した毎日でした。この貴重な体験をする場を与えてくださり、支えてくださった先生方に深く感謝いたします。



D6 選択実習を体験して

歯学部6年 鈴木 奈緒子

私は、今回の選択実習で歯周病科と口腔外科に参加させて頂きました。特に歯周病科は共診でなかなか見学する機会がなく、今回の選択実習はそういった自分の不足している所を補い、さらに詳しく知識を深めたいと思い、学内の実習を選択致しました。実習内容は、アシスト中心のもので、一人の先生にマンツーマンでつくという形式でした。

口腔外科では、外来、外科手術、時には検討会にも参加しました。ローテーションの時にはなかなか見学する事ができなかった手術を積極的に見学できることが、少人数制の選択実習の利点だと思いました。名前は知っていても、教科書で見ると実際に術式を見るのとでは印象が違うという事を改めて感じました。また、空き時間には、ミニ講義をして頂いたり、私の苦手分野の課題を出して頂いたりしたおかげで、臨床における知識が一層身につきました。

歯周病科では外来、外科手術、症例検討会、諮問などに参加しました。また、次の診療までの間には、患者さんの診断からメンテナンスまでに至る一連の治療内容を教えて頂きました。自分が疑問に思っている事をその場ですぐに質問できたことも、この実習のよい所だと思いました。ローテーションで一度回っていたため、こういった所を重点的に見学すればよいのかという要領がわかっていたので、紹介状などの手紙の書き方、問診のとり方、質問の多い患者さんへの対応の仕方などを最初から最後まで意識しながら見学することができました。

選択実習では、マンツーマンでつくことにより今まで分からなかった医局の雰囲気の良いなども知り、将来自分は何をやりたいかと迷っていた私にとって、方向性が見えてきて大変参考になったと思いました。大学病院に来院する患者さんには他医院では対処できなかった疾患をもっている方も多く、基本的な事ですが、患者さんが何を訴えているかをよく把握した上で、しっかりと治療計画を説明し、納得してもらわなければならないという大切さも同時に学びました。このように、今回の実習は私にとっては様々な面で新鮮な事が多く、とても充実した4週間となりました。

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 9月 9日(土):臨床研修歯科医師採用試験
- 9月23日(土):第3回歯学部進学相談会(旗の台)
- 10月 1日(土):大学院歯学研究科入学試験
- 10月3-7日:歯学部1年生早期体験実習
- 10月4-6日:職員定期健康診断

昇任・専門医取得

広報委員長 五十嵐 武

- 弘中祥司:助教授(口腔衛生学教室 9月1日付)
- 池田亜紀子:助手(総合診療歯科 8月1日付)
- 船津 敬弘:助手(病院長直属 8月1日付)

歯科麻酔学学会専門医取得:

- 永尾 康(歯科麻酔科)
- 藤原 広(歯科麻酔科)
- 増田 陸雄(横浜市北部病院麻酔科出向中)

診療統計(平成18年7月分)

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	17696	707.8	722.1	762.4
入院患者	433	14.0	11.6	11.2

昭和大学歯学部留学して

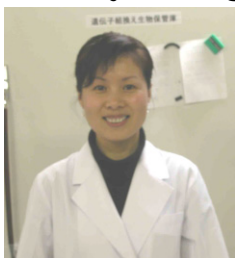
Jiayin Deng

歯科理工学教室 柴田 陽

Deng 先生は1988年に天津医科大学口腔医学院をご卒業後、歯周病学教室に入局されました。2000年に同講座の助教授に就任し、現在は教育委員長としてもご活躍されております。昨年4月、天津医科大学と昭和大学との交流プログラム留学生第一号として来日され、1年間の研修を修了されました。

Jiayin Deng

I am Dr. Jiayin Deng from Tianjin Medical University Dental Hospital. I came to Japan for a one year training and research at department of oral biomaterials and technology Showa University School of Dentistry.



In addition to training and research, I have a unique opportunity to experience Japanese cultural elements in the academic environment using my eyes as a foreigner from a neighboring country. Taking the Japanese style teamwork for example that has expressed me the most. In the complex research process, it is common to witness one faculty member help others and receive help from others in the form of constructive comments or technical assistance. It works like a team

In the past year, I have obtained so much positive experience and made many friends here. I happen to recall a couple of more Chinese although it is more often a virtual rather than a solid structure.

Time flies! I still recall the very moment when I landed at the airport. Now, I am about to go back to Tianjin, China. I wish I could stay here a little bit longer because I have fallen in love with the city, the environment, the university, the department, especially the people around here. Sayings "There will always be an end for a banquet.", but "Real friends will meet again some day!" Yes, I need to go back to continue my research and take care of my patients. But I promise you that I will come back to see you and review those sweet memories. I would also like to invite

you to visit Tianjin Medical University College of Dentistry and Dental Hospital.

吉林大学との共同研究

小児成育歯科学教室 伊田 博

2005年12月8-11日の4日間の日程で中国吉林省長春市の吉林大学口腔医学院(旧白求恩医科大学口腔医学院)と共同研究の打ち合わせを行いました。我々は吉林大学の魏秀峰先生(粘膜病科教授)、倪雪岩先生(小児歯科助教授)を中心とする先生方のご協力を得て、長春市に在住する小児を対象に2001年と2005年の2回にわたって研究調査を行ってまいりました。今回は2005年9月に行った調査結果の報告と調査対象の小学校にて、教職員向けの講演会を行い、今後の口腔保健指導について話すなど交流を深めました。

また、佐々龍二教授(現 名誉教授)と鈴木基之助教授の両名は平成17年9月付けで吉林大学の客員教授に就任され、その客員



教授就任の授与式が同年12月9日に吉林大学主催で開催されました。その授与式では、吉林大学口腔医学院の高文信病院長からのご挨拶が述べられた後、鈴木基之助教授から客員教授就任の授与におけるご挨拶がありました。残念ながら佐々龍二教授は都合によりその授与式にご出席できなかったため、私が代理で出席致しました。帰国後、直ちに佐々教授へご報告と授与証明書をお渡しいたしました。これまでの中国との共同研究と国際交流が、このような栄誉ある結果を結ぶことができたことと感銘を受けました。

編集後記

広報委員(小児成育歯科学教室) 浅里 仁

梅雨がなかなか明けなかった7月が嘘のように、8月は夏空が広がり、下旬まで残暑が続きました。

病院は真っ黒に日焼けした子ども達であふれています。元気な子どもたちの笑顔をみていると、私もがんばらなければいけないと強く思います。

今号も、教育・研究・臨床について、非常に有益な投稿を歯学部だよりに多くいただきました。お忙しい時期にもかかわらず、原稿をご執筆いただいた諸先生方には心から感謝いたします。

最後になりましたが、細部にわたりご指導いただいた広報委員長の五十嵐教授には心からお礼申し上げます。